

3. 社会科論文

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの育成 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラムの創造



| | | |
|-----|--------------------------------------|----|
| I | 研究の目的 | 37 |
| 1 | 研究の背景 | 37 |
| 2 | 研究の方向 | 37 |
| II | 研究内容 | 38 |
| 1 | 人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの育成とは | 38 |
| 2 | 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラム創造の基本的な考え方 | 39 |
| (1) | 社会科カリキュラム創造の基本的な考え方 | 39 |
| (2) | 社会科カリキュラム創造の視点について | 39 |
| 3 | 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラムの全体構想 | 40 |
| (1) | 地域の特色を生かした素材 | 40 |
| (2) | 学びを深める具体的・基礎的資料や体験活動 | 40 |
| (3) | 言語活動と関連させてはぐくむ問題解決能力 | 41 |
| (4) | 地域にかかわるための活用の明確化 | 41 |
| 4 | 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラムの具体化 | 42 |
| (1) | 社会科カリキュラム創造の視点を生かした年間指導計画 | 42 |
| (2) | 社会科カリキュラム創造の視点を生かした授業 | 43 |
| III | 研究の実際 | 44 |
| 1 | 実践の立場 | 44 |
| 2 | 実践結果と考察 | 45 |
| IV | 研究の成果と課題 | 48 |
| 1 | 研究の成果 | 48 |
| 2 | 研究の課題 | 48 |

【学校教育目標】

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成 【校訓】 まことの子・ちからの子・のぞみの子

【目指す子ども像】

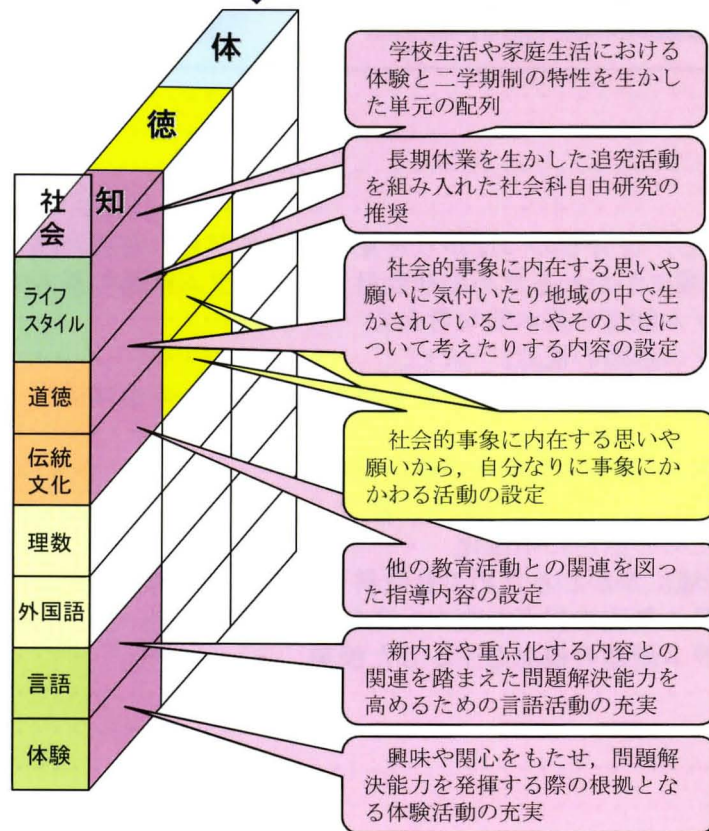
(知) 互いの考えに学び合う子ども (徳) 心と心がひびき合う子ども (体) 心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

| | | |
|---|---|---------------------------------|
| 確かな学力の面から ○論理的な思考 ○伝え合う方法の習得 ○学ぶ喜びや楽しさの実感 | 豊かな心の面から ○人間関係(他者意識) ○自己の発揮の仕方 ○多様な体験 | 健やかな体の面から ○基礎体力 ○生活習慣 ○健康・安全 |
|---|---|---------------------------------|

【確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐむカリキュラム】

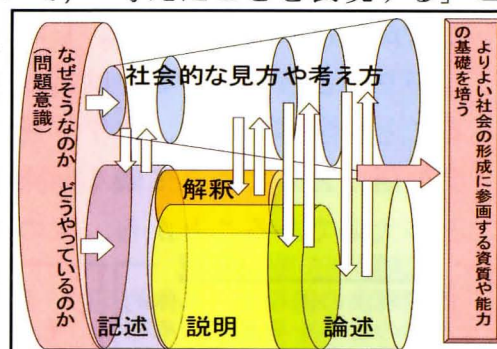
| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|
| | | 健やかな体をはぐむ観点(体) | | | | | | | | | | | | | |
| | | 豊かな心をはぐむ観点(徳) | | | | | | | | | | | | | |
| カリキュラム創造の視点 | | 確かな学力をはぐむ観点(知) | | | | | | | | | | | | | |
| | | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 生活 | 音楽 | 図工 | 家庭 | 体育 | 道徳 | 外国活動 | 総合 | 特活 | 複式 |
| カリキュラム創造の視点 | 枠組 | 学校のライフスタイルの見直し | | | | | | | | | | | | | |
| | 内容 | 道徳教育の充実 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 伝統や文化に関する教育の充実 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 理数教育の充実 | | | | | | | | | | | | | |
| | 方法 | 外国語教育の充実 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 言語活動の充実 | | | | | | | | | | | | | |
| | 体験活動の充実 | | | | | | | | | | | | | | |



I 研究の目的

1 研究の背景

新学習指導要領では、各学年の能力に関する目標において、「考えたことを表現する」ことが一層重視されたことから、昨年度、研究の重点を「社会的な見方や考え方を深めための言語活動の充実」と設定し、言語活動の充実を図るための基本的な考え方を明らかにした。そして、各学習過程において、「記述」「解釈」「説明」「論述」の言語活動を段階的に設定し、言語活動の充実を図ったことで、社会的な見方や考え方を深めていく子どもの姿が見られるようになった。



【図1】言語活動と社会的な見方や考え方の関連

しかし、次のような課題が明らかになった。

- 自分や社会生活とのつながりを考える姿が十分に見られなかった。
- 社会を構成する一員としての在るべき姿を見出す子どもの姿が十分に見られなかった。

また、新学習指導要領において、公共の精神、生命や自然を尊重する態度、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが新たに規定されたことから、公民として社会にどのようにかかわっていくのかを考えさせることが大切になってきている。

だから、社会的な見方や考え方を深めるとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養えるように、自分や社会生活とのつながりをより一層意識したものにならなくてはならないと言える。

2 研究の方向

自分とのつながりをより一層意識させるためには、人間の営みに共感させることが必要だと考えた。なぜなら、人間の営みを追究していく過程において、見えることから見えないことが明らかになり、自分の立場がはっきりすると共に、相手の考えに学びながら社会的な見方や考え方を深め、これまでの自分とのつながりを補強・強化・修正していくからである。

これまでの研究で、人間の営みに共感することを、次のようにとらえてきた。

■ 人間の営みに共感するとは

「人と人との関係」「人と社会との関係」「人と自然との関係」に積極的にかかわりながら、自分の立場（見方や考え方、主張）をはっきりさせ、相手の立場（見方や考え方、主張）をわかろうとすること。

人間の営みに共感し、追究していく過程で、人々の工夫や努力、願いなどに具体的に触れることで、社会的事象の意味や働きがわかる。また、それらと自分とのつながりがわかり、「自分も地域の一員としてこんな人になりたい」や「こんなことができる自分になりたい」などのように、共に追究しながら社会的事象に内在する思いや願いに気付いたり、自分が地域の中で生かされていることやそのよさについて考えたりすることになる。

そこで、子どもが自分とのつながりを見つめるために、地域から学べるようにする。そして、自分とのつながりを広げたり深めたりしながら、社会的事象の意味や働きがわかり、地域を身近に感じ、積極的にかかわれるような社会科カリキュラムの創造に取り組む。

以上のことを踏まえて、次の研究主題と副題を設定した。

**人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの育成
～地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラムの創造～**

II 研究内容

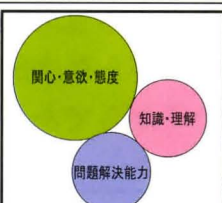

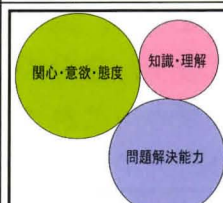
1 人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの育成とは

子ども一人ひとりには、それぞれの生活経験や既習経験などに応じて、社会生活と自分とのつながりに気付いている。しかし、生活経験の中で受けた恩恵と身に付けた中心概念とのつながりをとらえているとは言い難い。そこで、私たちのくらしが社会生活とのつながりがあることを学ぶために、まず、社会生活がわかるようにする。その際、これからの子どもの社会生活において生きて働く知識や、よりよく問題を解決していく資質や能力を育てていくことが大切であることから、次のような三つの資質や能力を身に付けられるようにする。

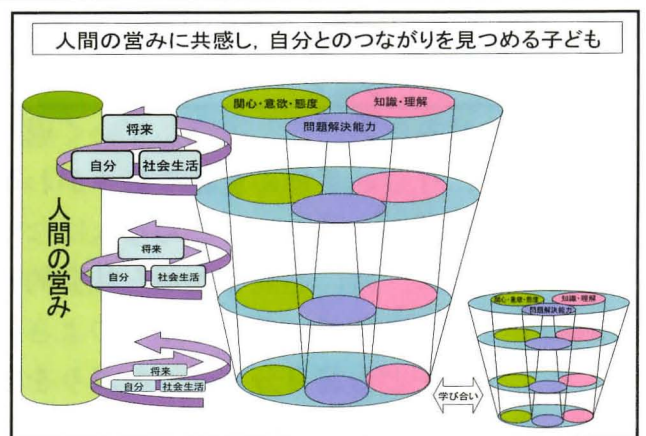
| | | |
|--|---|--|
| <p style="text-align: center;">社会的事象についての関心・意欲・態度</p> <p>問題解決の過程で、具体的な人間の営みを発見し、その姿や相手の考えに共感することにより、新たな課題を自ら解決していこうとする意欲</p> | <p style="text-align: center;">問題解決能力</p> <p>○ 具体的な人間の営みについて、問題を見出し、その特色や相互の関連、意味や働きを考え、適切に判断する際の根拠となる資料活用力 ○ 自分の考えを整理、再構成しながらわかりやすく表現する力</p> | <p style="text-align: center;">社会的事象についての知識・理解</p> <p>社会生活を支えている具体的な人間の営みに関する知識・理解</p> |
|--|---|--|

つまり、三つの資質や能力を培いながら、子どもが社会生活と自分とのつながりを見つめることが大切であると言える。この自分とのつながりを見つめる様相は、追究していく過程において広がったり深まったりすることから、「自分のこととして見つめる姿」「社会生活とのつながりを見つめる姿」「将来とのつながりを見つめる姿」が見出せるのではないかと考える。そして、三つの資質や能力との関連を考慮すると、表1のように示すことができる。このようにして、子どもは、社会生活と自分とのつながりを見つめながら、三つの資質や能力を調和的に身に付けていくことができるのである。

【表1 具体化した自分とのつながりを見つめる姿と三つの資質や能力との関連】

| | 自分のこととして見つめる姿 | 社会生活とのつながりを見つめる姿 | 将来とのつながりを見つめる姿 |
|-----------|--|---|--|
| 具体的な姿 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人間の営みから積極的に学ぼうとする ○ 自分らしく積極的に行動しようとする | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と他者のつながりから、社会生活にかかわろうとする ○ 社会生活のために自分にできることを尽くそうとする | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の将来像を実現しようとする ○ よりよい社会を創造しようとする |
| 関連する資質や能力 |  <p>人間の営みに関心を持ち、問題意識を高めながら自ら解決していこうとする意欲が高まってきている</p> |  <p>関心・意欲が高めながら人間の営みに関する知識・理解を習得し、新たな課題を解決していこうとする</p> |  <p>新たな課題の意味や働きを考え、自分なりの価値判断をわかりやすく表現しようとする</p> |

三つの姿を学年ごとの発達の段階や学習内容との関連を考慮して、社会科の学習を展開することが、図2のような自分とのつながりを見つめる姿に迫ることになる。また、自分の立場からだけでなく、共に学ぶ友達の立場に学ぶようすることで、三つの資質や能力を発揮しながら、よりよく自分とのつながりを見つめることができるかと考える。そこで、人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの姿を次のように設定した。



【図2人間の営みに共感し自分とのつながりを見つめる子ども像】

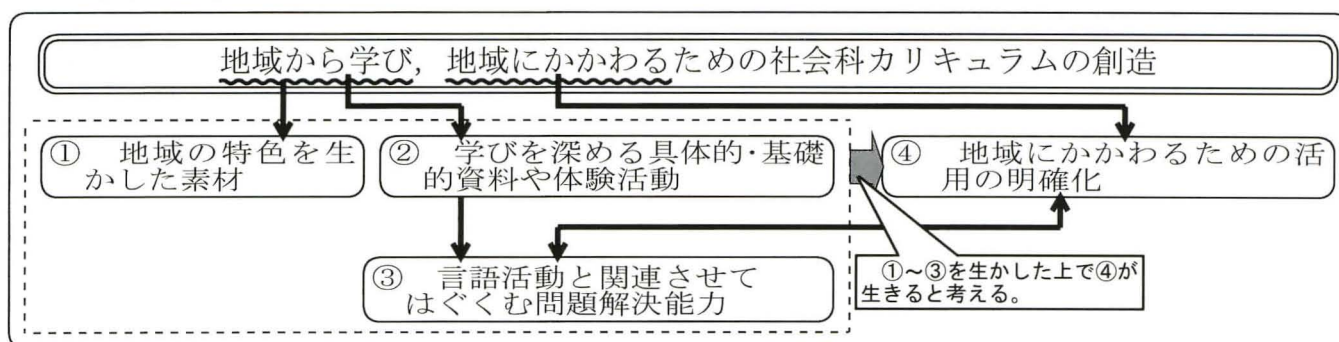
■ 人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもとは

共に学び合うことを通して、三つの資質や能力を調和的に発揮しながら、「人と人との関係」「人と社会との関係」「人と自然との関係」の価値を実感し、社会的事象の意味や働きと自分とのつながりを見つめる子ども

2 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラム創造の基本的な考え方

(1) 社会科カリキュラム創造の基本的な考え方

人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもを育てるためには、地域から学び、学んだことと自分とのつながりがあることをわかるようにすることが大切である。なぜなら、身近に感じられる地域素材は、子どもたちの関心や意欲を高めながら学習内容を習得させ、地域に対する思いや願いを強めることになるからである。また、三つの資質や能力を調和的に発揮させながら、追究対象に積極的にかかわらせることが必要である。そこで、本校の社会科カリキュラムの創造に当たっては、図3のように視点を設定した。また、言語活動の充実については、前年度研究を生かしてそれぞれの視点において位置付け、問題解決能力との関連を大切にしながら学習を展開できるようにする。



【図3 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラム創造の視点】

(2) 社会科カリキュラム創造の視点について

ア 地域の特徴を生かした素材【視点①】

興味や関心を高めたり、身近さを生かしたりしながら、積極的にかかわらせることができるようにするために、子どもにとって身近な地域素材を取り入れる。

イ 学びを深める具体的・基礎的資料や体験活動【視点②】

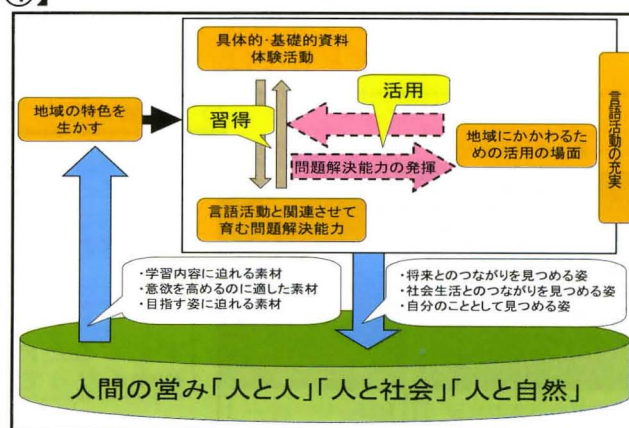
地域の特徴を生かした素材を基に、興味や関心を高め、思考力や判断力を発揮させることができるようにするために、学習内容の構造化を図りながら、発達特性に合わせた具体的・基礎的資料や体験活動を生かせるようにする。

ウ 言語活動と関連させてはぐくむ問題解決能力【視点③】

なぜそのように考えるに至ったのか根拠を示しながら、問題解決能力を発揮できるようにするために、思考力・判断力等のどんな問題解決能力を発揮させるのかを、発達の段階や学習内容に応じて設定する。

エ 地域にかかわるための活用の明確化【視点④】

設定した自分とのつながりを見つめる子どもの姿に迫っていくために、地域にかかわるための活用を明確にし、問題解決能力を発揮させる。そして、図4のように地域から学んだことで、地域を見る目が変わり、地域の一員としてどうかかわっていくかを考えられるようにする。その際、習得した内容を生かしたり問題解決能力を発揮したりしながらかかわれるような活用にする。



【図4 社会科における「活用」】

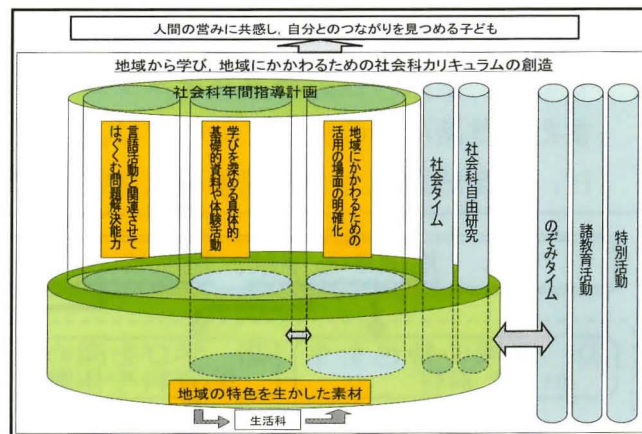
3 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラムの全体構想

図5の全体構想は、目指す子ども像、年間指導計画、他教科・領域との関連などを示した図である。この全体構想図に、カリキュラム創造の視点を加えて説明する。

(1) 地域の特徴を生かした素材

地域の特徴を生かすことで、様々な事例の中から单元ごとや学年ごとのつながりが見られてくる。それらを生かして内容同士の関連を意識した单元構成ができる。そして、身近にあることから、自分の目で直接触れる機会が増え、自分とのつながりを意識しやすくなると考える。

また、子どもの経験は、社会科の学習のみならず、学校生活の中や家庭生活の中にも及んでいく。学校生活の中で、社会科の学習内容と関連のある内容を取り入れることでつながりを見出せると考える。例えば、以下のことが考えられる。



【図5 社会科カリキュラム創造の全体構想】

【例 第4学年单元「くらしと水」と第5学年自然教室における「カヌー体験」との関連】

4年生の学習で、市民の健康的な生活向上のために万之瀬川から導水して市民のくらしに役立っていることと、5年生の自然教室のカヌー体験がつながり、私たちのくらしを支える水が生活のためだけでなく、万之瀬川の自然が多様な利用のされ方をしていることに気付く。

(2) 学びを深める具体的・基礎的資料や体験活動

これまで本校では、社会科見学を重視し、取り組んでいる。なぜなら、社会科の学習で活用される具体的・基礎的資料や体験活動は、子どもに興味や関心をもたせたり、問題解決能力を発揮させたりするものでなければならないと考えるからである。その際、子どもの学びを深めるために、单元目標と照らし合わせ、価値ある活動になるのかを吟味し、カリキュラムに位置付けていく。

また、社会科見学に出かけるだけでなく、学習の中に持ち込み、日常の体験を掘り起こす方法も考えられる。そうすることで、自分にとって身近であり、「解決したい、分かってほしい」という思いをもたせながら学びを深めることのできる具体的・基礎的資料や体験活動にできる。

だから、社会科における具体的・基礎的資料や体験活動は、子どもに興味や関心をもたせ、問題解決能力を発揮する際の根拠となる。学習の中に具体的・基礎的資料や体験活動を持ち込む方法としては、以下の例のようなことがある。

◇ 体験活動を学習の中に持ち込む例 ◇

① 乗るのが大変だな。

【従来のバスのステップ】

比較

② 楽に乗れたよ。

【低床バスのステップ】

従来のバスのステップ

低床バスのステップ

教師の働きかけ

「なぜ、人のことを考えた自動車が増えてきたのだろうか。」という追究問題を究明する際に、子どもに市営バスの高さの違う2つのステップを疑似体験させた。そこで、①と②の子どもの発言を比較させ、「なぜ、バスのステップは変わったのだろうか。」と発問しながら、「いろんな方々が利用しやすくするために乗り降りしやすくなってきた。」という見方や考え方をもちだせることができた。

(3) 言語活動と関連させてはぐくむ問題解決能力

どんな問題解決能力を身に付けさせながら学習を展開したらいいのかを、新内容や重点化する内容との関連からも検討していく。具体的には表2のような問題解決能力が挙げられる。これらを、追究していく過程で具体的に発揮させるために、言語活動と関連させて取り組む。その際、教師は、どんな具体的・基礎的資料や体験活動を取り入れ、どこに着目させて話し合わせるのかを想定し、はぐくみたい問題解決能力を位置付ける。そして、どのように表出させたらいいのか、場面を具体的に設定し、見えることから見えないことが明らかになるようにする必要がある。なぜなら、子どもは、直感的に答えて問いに対する答えを導き出し、何を根拠に考えたのかが明確でないことがあるからである。そこで、見えていることとしてどんなことがあるのかを短く、簡単に言わせたり書かせたりすることで、何を根拠にして問題解決能力を発揮できたらいいのかを明らかにさせる。以下は、根拠を基に問題解決能力を発揮させる例である。

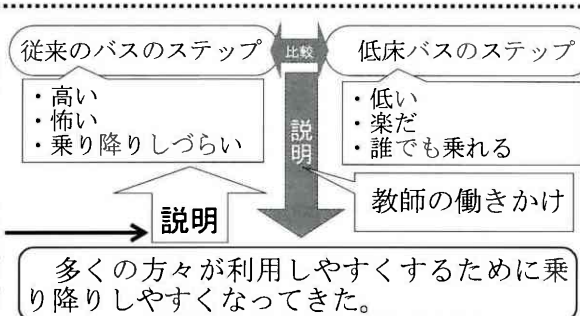
【表2 言語活動と関連させて育む問題解決能力】

| | |
|----|------------------|
| 比較 | 同じ点や違う点を比べて考える |
| 関連 | 社会的事象同士のつながりを考える |
| 条件 | 条件をそろえて、比べて考える |
| 因果 | 原因と結果を考える |
| 類推 | 類似点を基にして推し量って考える |

◇ 根拠を基に問題解決能力を発揮させる例 ◇

事実を基にして説明することができるように、体験活動を通して、同じ点や似ている点をノート等に明らかにさせる。そうすることで、根拠を明らかにしながら「いろんな方々が利用しやすくするために乗り降りしやすくなってきた。」と説明できるようにする。

そして、「なぜ、そのようなになってきたのか。」と問い返したときに、『高いステップだと乗り降りが大変な方々がいる。しかし、低いステップだったら誰でも乗り降りしやすいから、低いステップに変わったのだ。』という説明をできるようにする。(言語活動)



(4) 地域にかかわるための活用の明確化

社会科で目指す活用については以下のように考える。

■ 社会科で目指す活用とは

習得した社会的事象に関する知識・理解や問題解決能力を発揮させながら、言語活動の充実を図り、地域にかかわる活動に取り組むことを通して、自分とのつながりを見つめることのできる学習活動

活用の場面において、習得した内容を生かすことを通して、「知識・理解」だけでなく、「問題解決能力」や「関心・意欲・態度」も関連させ、よりよく問題解決を図ることができるようにする。ここでは、三つの資質や能力を調和的に高めながら追究させる。

よりよく問題解決を図ろうとする際に、学んだことへの自分の思いや願いを基に、地域にかかわらせるようにする。その際、表3のような、地域の一員としてかかわる活動に取り組ませる。それらは、活動ありきではなく、社会的事象の意味や働きを追究することを通して、興味や関心を高めながら取り組む活動である。

また、討論などの言語活動の充実を図ることも考えられる。自分の立場を明らかにし、これまでの学習で身に付けたことを生かした討論的活動に取り組ませることを通して、具体化した自分とのつながりを見つめる姿が表出されると考える。

【表3 地域にかかわる活動の例】

| | |
|------|------------------------|
| 啓発 | ポスターやCMを作る |
| 交流 | 見学先に学んだことを生かして手紙を書く |
| 提案 | 自分たちの意見を投書したり手紙を書いたりする |
| 直接参加 | ごみゼロ運動やリサイクル運動に取り組む |

4 地域から学び、地域にかかわるための社会科カリキュラムの具体化

(1) 社会科カリキュラム創造の視点を生かした年間指導計画

授業時数のゆとりや長期休業を挟む二学期制の特性を生かして、新たな体験活動や夏休みの自由研究の取り組みなどを充実させられるようにしたりする。その際、単元の配列を変えることも視野に入れ、充実した体験活動にし、自分とのつながりを見つめることができるようにする。そこで、年間指導計画を見渡せるよう、以下の表4を作成した。

【表4 社会科の年間指導計画を見渡すための表】

| | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | 6年 | |
|-----------------|-------|----------------------------------|-------------------|------------------------------------|------------------|---|-------------------|-----------------------------------|----------------|
| 地域と自然に関すること | | 学校の周りの様子 鹿児島市大発見 古くからある建造物 | | 県の地図を広げて 県内の特色ある地域に住む 人々の暮らし | | 地図を広げて わたしたちの住む国土 | | 住みよい環境を守る 我が国の森林 | |
| 地域と産業システムに関すること | | スーパーマーケットの仕事 ポンタンアメ工場の仕事 | | | | 農業、水産業 これからの食料生産 我が国の自動車工業 工業生産と工業地域 | | 工業生産と貿易 暮らしと情報産業 これからの情報化社会 | |
| 地域と公共システムに関すること | | | | くらしと水 くらしとごみ 安全なくらしを守る | | | | | |
| 地域史に関すること | | 市に残る行事 変わってきた人々の暮らし | | 用水を引く | | | | くらしと歴史 縄文時代 | |
| 学期 | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 問題解決能力 | 【比較】 | ● 〈主に生活経験との比較〉 | ● くらしの移り変わり | ○ 〈主に生活経験との比較〉 | ○ | ○ 〈主に生活経験との比較〉 | ○ 〈主に既習経験との比較〉 | ○ | ○ |
| | 【関連】 | ○ | ● 生産・販売と消費者の関係 | ● 消防署等と関係諸機関 | ● 資源の保護活用とくらし | ● 生活と農業・水産業・工業 | ○ 環境問題 | ○ 各時代の特色 | ○ 人々の願いと政治 |
| | 【条件】 | ○ 〈部分と部分の結び付き〉 | ○ | ○ 〈部分と部分の結び付き〉 | ○ | ○ 〈全体と部分同士の結び付き〉 | ○ | ● 〈部分と全体の結び付き〉 | ● 社会の成立する条件 |
| | 【因果】 | | | | | | ● 産業の発達と環境 | ● 文化・政治と歴史的背景 | ● 立法と司法 |
| | 【類推】 | | | | | | ● 森林 | ● 特色(風俗、文化、生活) | ○ 国際社会 |
| 体験活動を生かした学習内容 | | 買い物体験、ポンタンアメ試食、昔の衣食住体験 | | 川の水、ごみ、用水路の模型、火山灰に触れる | | 自動車部品、水俣湾の水の匂い、ノーマディアデー、ネット体験 | | 世界の物(サリーなど) | |
| 体験活動 | 社会科見学 | 学校周辺、市内巡り、スーパー、食料品工場 | | 浄水場、清掃工場、警察署、消防署、用水路 | | 新聞社 | | 弥生式住居、市役所・市議会 | |
| 学校行事 | | 大浪池環境みらい館 | | 中岳吉野開墾地 | | 韓国岳万之瀬川 | | 開聞岳、平和祈念像、グアラバー邸、雲山災害記念館 | |
| 総合的な学習の時間 | | 身の回りの地域の様子 | | 環境、国際理解 | | 福祉・健康 | | 伝統・文化、自分の将来像 | |

※ ゴシック体は、新たな内容、新たに見直す内容。各学年の単元配列は年間指導計画を参照。
●は重点化したもの

【表5 新旧の第5学年 年間指導計画】

ここで、5年生の年間指導計画を例に説明する。これまでは、表5の上段のように、我が国の産業や特色を段階的に設定し、我が国の部分から全体の様子や特色について追究できるように配列をしていた。これを、下段のように、全体と部分の関連が表れるような単元配列にした。

まず、新単元「地図を広げて」で、我が国全体の国土や世界の中での位置をとらえさせてから、それぞれ

| 単元名 | 一学期 | | | 二学期 | | | | 三学期 | | |
|-----|-----|-----|------|-----------|-----------|---------|----------------|------------|-------|--------|
| | 農業 | 水産業 | 食料生産 | 自動車をつくる工業 | 工業生産と工業地域 | 工業生産と貿易 | わたしたちの暮らしと情報産業 | わたしたちの住む国土 | 環境を守る | 我が国の森林 |
| 前期 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 後期 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 関係 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 因果 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 類推 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

の地域の特色を生かした産業を追究できるようにした。また、「わたしたちの住む国土」を④のように後期に入れることで、特色ある地域の農業や水産業の学習を生かして国土の学習に取り組めるようにした。

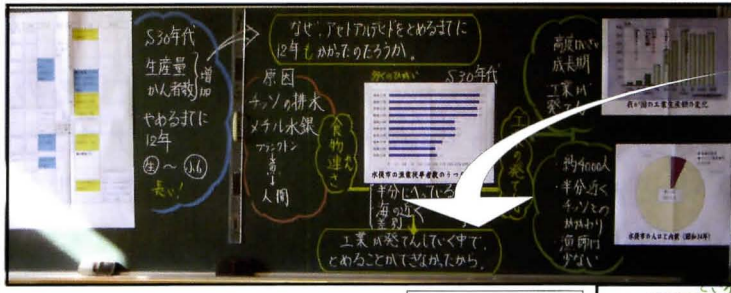
次に、単元の入替を行った。例えば、これまでは、工業の単元の次に情報産業の学習を設定していたが、表5の⑥のように単元の配列を入れ替えた。そうすることで、右のように、「我が国の工業」で学んだ工業の発展への恩恵と、「住みよい環境を守る」で学んだ公害を防止することの大切さを関連させて考える姿が見られたことから、単元の入替は効果的であったと言える。

私は、(一)四大公害病の患者を
増やさないために、産業より命を
ゆり先したいです。この水俣病か
ら産業は、喜ばただけでなく、悲し
いこともあることが分かりました。
私は人と産業のかかわりをもう
少しよくしたいと思いました。人
はもう少し産業に感謝し、工業
の方は人のことをちゃんと考え環
境のことをし、かり考えるべきだ
と思いました。

【単元配列を変えて表出された姿】

(2) 社会科カリキュラム創造の視点を生かした授業

人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの育成に向け、授業を次のように展開した。第5学年単元「住みよい環境を守る」を例として説明する。ここでは、表1の「将来とのつながりを見つめる姿」について述べる。

| | 具体的な教師の働きかけ | 明らかになった子どもの姿 |
|---|--|---|
| ① | ○ 鹿児島県にも身近な水俣病 | ○ 隣の県のことではなく、私たちに関係があるのだな。 |
| ② | ○ 現在の水俣湾の海水 ○ 読み物資料（鹿児島県環境政策部出版） ○ 原因究明や訴訟にかかわった人物のDVD | ○ どのようにして解決したのだろうか。 ○ なぜ、起こったのだろうか。 ○ 当時の人々はどんな思いだったのだろうか。 |
| ③ | ※ 単元終末の個人新聞を基に、思考の流れを探る。 ○ ②を基にしたノートを使った調べ学習に取り組ませる。 ・短く、簡単に、簡条書きで、順序が分かるように ○ 調べたことを基に、原因、解決方法について話し合わせる。 ○ ④の討論的活動後、個人新聞に整理・再構成し、自分の考えをまとめさせる。 |  <p>原因 チソの排水 メチル水銀 アノリン 毒物運搬 汚染 人間の</p> <p>解決方法はわかり、また、公害の考えから、公害の起こった原因にこだわって考えていることがわかる。</p> <p>三解決方法 1. 1971年に発生 2. 訴訟を起 3. 賠償を受け 4. 公害の発生 5. 国の責任を 6. 公害の発生 7. 公害の発生</p> |
| ④ | ○ 「被害者を見た家族や工場の人々はどんな思いや願いをもっていたのだろうか。」 ○ 被害者、工場側、国や県のそれぞれの立場を選択しての討論的活動 | ○ 水俣病を、早く防ぐことができたならばよかった。 ○ どうしたら水俣病は起こらなかったのだろうか。 ○ 水俣病の因果を明らかにして、自分の考えを述べる姿 |

社会科カリキュラムの創造の視点を生かして授業を構成したことで、右のような「人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる」子どもの姿が見られた。

これらのことから、カリキュラム全体を見通しながら、授業に生かすことで、目指す子ども像に迫れると考える。

因果関係を明らかにしながら、将来とのつながりを考える姿が見られる。

四大公害病は、利益一
張りの為、引き起二さ
れたことが分かった。も
自分が社員だったら、
過去の失敗を生かして、
環境を考えた方がいいと思
う。政治家になってそのことをみんなに訴えたい。

あつらした、これくらい大丈夫と言
う気持ちの方が大きな害を生んでしまつた。
工業がさかんな地域付近にあり海
に面しているという、ことに気が付い
た。わたし達が住んでいる市も海
に面して、北の九州では農業業
がさかんなので、安全安心を大切
に市内の信ら関係がある豊
かな社会にしていきたいです。
は、相手のことを思いやる心
が大切だと思います。

この勉強が一番心に残ったのは、
細川一さんです。人命は生産より優先する
ことを企業全体に要望する。という言葉が
まず、初め言葉の意味がよく分らなかつ
たけど、授業の終わりに、分り
ました。私も細川さんのように、人の命
を大切にしたいです。この言葉は、チソ側
にいた細川さんが退職して患者側、病
にいた細川さんが、チソ側の人達に一番
伝えたいのだと思います。

【個人新聞に見出された姿】

Ⅲ 研究の実際

1 実践の立場

(1) 実践の目的

学習指導要領が改訂され、第6学年内容として、新たに「社会保障に関する指導内容」が明記された。社会保障については、人が一生のあらゆる場面にかかわるものであり、その中でも子育て支援事業は、現実的な社会問題・社会制度として興味・関心をもたせながら、自分たちの生活とのかかわりで追究することができる内容であると考え、本実践単元「わたしたちの暮らしと政治」を設定した。

本実践においては、身近な生活における政治の働きについて子育て支援事業を中心に学習し、単元を通して「人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの姿」の具現化を目指していこうとするものである。

具体的な目指す子どもの姿とは、次の三つである。一つは、子育てに関わる事例について授業以外で情報を集めたり、興味・関心をもって関連するニュースなどに目を向けたりする「自分のこととして見つめる姿」である。二つ目は、「社会生活とのつながりを見つめる姿」である。三つ目は、学習を通して高まった見方や考え方を基に、今後のよりよい子育て支援のために自分なりの政策を提案する「将来とのつながりを見つめる姿」である。

(2) 実践の視点

① 地域の特色を生かした素材

鹿児島市の子育て支援事業が自分たちの生活とどう関係しているのかを調べさせていく。また、自分の保護者等が現在行っている営みに触れるだけではなく、子育てに対する考え方や思い、願いなどがどのように政治に結びつき、生活に生かされているのかを調べさせていく。

② 学びを深める具体的・基礎的資料や体験活動

市役所や市議会、子育て支援関連施設の見学の機会を設定したり、金融機関の関係者で、税金の仕組みや働きについて詳しい方の人材活用を図ったりすることで、政治の働きについてより具体的、実感的な理解を促していく。

③ 言語活動と関連させてはぐくむ問題解決能力

子育て支援に関する資料を基に、子育ての支援の必要性や方法、内容などを記述させたり、国や県・市の政治と子育て支援事業の資料とを関連付けて説明させたりする。また、市長の立場という設定で子育て支援に関するマニフェスト作成を行わせる。これまでの学習資料や体験活動を基に、子育て環境改善のための具体的な市政への提言を発表させるようにする。

④ 地域にかかわるための活用の明確化

習得した学び方を実際の生活場面を通して考える場を設定する。政治を行う市長としての立場で、子育て支援の現状や課題点を基にして、さらに子育て支援が充実するような改善案、解決案を提示させるようにしていく。

(3) 評価と見取る方法

評価の重点として、地域にかかわる活用の場面を設定する。単元終盤のマニフェスト作成における、ノート記述や作品、グループでの話し合いの様子を評価の対象とする。記述や作品、グループでの話し合いの中に、「子育て支援施設を増やす」「税金の使い

方を考える」などの記述や会話が表出されることを見取るようにする。

(4) 社会科第6学年 年間指導計画

新内容への対応として、「狩りや漁をしていた人々の暮らし」と「今につながる室町の文化」について時数を増やし、地域の特色や現在の生活との関連を見出せるよう設定した。


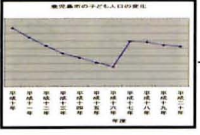
【表5 新しくつくった第6学年 年間指導計画】

| 単元名 | 前期 | | | | | 後期 | | | | |
|-------------|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 狩りや漁、米づくりをし | ○ | | | | | | | | | |
| 古墳や土器のつくりと大 | | ○ | | | | | | | | |
| 天皇の世の中を | | | ○ | | | | | | | |
| 支那の文化が貴族の生 | | | | ○ | | | | | | |
| 源朝の文化が武士の | | | | | ○ | | | | | |
| 今に伝わる文化が | | | | | | ○ | | | | |
| 天下統一に向けて | | | | | | | ○ | | | |
| 徳川家光と江戸 | | | | | | | | ○ | | |
| 文化や学問を盛 | | | | | | | | | ○ | |
| 明治維新 | | | | | | | | | | ○ |
| 世界に歩み出した | | | | | | | | | | ○ |
| アジアの戦い | | | | | | | | | | ○ |
| 平和を目指した | | | | | | | | | | ○ |
| わが国と世界の関係 | | | | | | | | | | ○ |
| わが国と世界の関係 | | | | | | | | | | ○ |
| 日本の役割 | | | | | | | | | | ○ |
| 世界の平和と日 | | | | | | | | | | ○ |

2 実践結果と考察

(1) 実践1 (1/10) 「つかむ・見通す」過程

本段階では、現時点での自分と社会生活とのつながりを見つめ、鹿児島市がどのような子育て支援を行っているのかという問題意識と身近な政治への関心・意欲を高めるために、生活の中の身近な子育て支援政策と少子化の現状から、子育て支援の必要性や将来にわたる予想を話し合わせるようにした。

| 主な教師の働きかけ | 自分とのつながりを見つめる子どもの姿 | | | | | | | | | | |
|---|--|--------|---|----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|--|
| <p>㊦ 旗・ステッカー (子育て支援協賛企業等)</p> <p>○ 身近な生活場面に見られる子育て支援の事例について意識を高めさせるためにフラッグやステッカーを基に、内容について話し合う。 【視点①】</p>  | <p>よく行くお店で見かけたよ。</p> <p>母はそれを利用して割引してもらったよ。</p> <p>あまり見かけたことはないな。</p> <p>子育て支援について調べたり考えたりしたいことについて話し合おう。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>㊦ パンフレット (子育て支援パスポート内容)</p> <p>○ 協賛店での特典等の内容をとらえさせるために、パンフレットを基に、調べさせサービスについて話し合わせる。</p> | <p>子どもに粗品がもらえるよ。</p> <p>割引で安くなるよ。</p> <p>場所の提供もあるよ。</p> <p>無料レンタル制度もあるよ。</p> <p>子供連れでも外出や買い物がしやすくなるっているんだな。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>㊦ 子育ては楽しそうで、支援もこれで十分なのではないかな。</p> | <p>いろいろなことにお金がかかるのだな。</p> <p>精神的にも肉体的にもかなりのストレスになるのだな。</p> <p>自分の親も大変な思いをしたのかな。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>㊦ 表 (子育ての課題点)</p> <p>○ 子育てに関する辛さや難しさをとらえさせるために、予想させながら課題点を提示し、これまでの経験や保護者の様子を結び付けて考えさせる。</p> <table border="1" data-bbox="430 1182 630 1344"> <tr><td>1</td><td>お金がかかる</td></tr> <tr><td>2</td><td>体力や根気がいる</td></tr> <tr><td>3</td><td>自由時間がなくなる</td></tr> <tr><td>4</td><td>自分が働けなくなる</td></tr> <tr><td>5</td><td>接し方が分からない</td></tr> </table> | 1 | お金がかかる | 2 | 体力や根気がいる | 3 | 自由時間がなくなる | 4 | 自分が働けなくなる | 5 | 接し方が分からない | <p>子どもの人口は毎年減り続けているぞ。</p> <p>合併して少し増えたけど、やっぱり減ってきた。</p> <p>出生数自体も減ってきているんだな。</p> <p>子どもがいなくなってしまうのではないかな、大丈夫か。</p> |
| 1 | お金がかかる | | | | | | | | | | |
| 2 | 体力や根気がいる | | | | | | | | | | |
| 3 | 自由時間がなくなる | | | | | | | | | | |
| 4 | 自分が働けなくなる | | | | | | | | | | |
| 5 | 接し方が分からない | | | | | | | | | | |
| <p>㊦ グラフ (市の子ども人口の変化)</p> <p>○ 少子化の実態をとらえさせるために、市の子ども人口の変化に着目させ、他の子育て支援政策へ目を向けさせるようにする。</p>  | <p>将来の社会は大丈夫だろうか。</p> <p>なぜ減り続けているのかな。</p> <p>子育て支援が足りないの。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>㊦ このまま減り続けるとどうなるのだろうか</p> | <p>鹿児島市の子育て支援はどのように行われているのだろうか。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>㊦ 市の子育てはどのように変わっていくのだろうか</p> <p>○ 子育て支援を通じた政治の動きを追究させるために、学習問題に対する追究の柱や学習計画を立てさせ、見通しをもった活動が行えるようにする。</p> | <p>【追究の柱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化の問題点 ○ 子育て支援と政治の動き ○ 国の政治の働き ○ 税金の仕組みと働き | | | | | | | | | | |

(考察)

まず、鹿児島市内の子育て支援協賛店舗に掲げられている、ステッカーやフラッグを提示することで、子どもたちは、子育て支援パスポートを保護者が利用している事実や実際にサービスを受けたことを発表し、自分の生活との関連で子育て支援が行われていることをつかむことができた。(視点①)


次に、子育てをしている人たちが感じている課題点を予想しながら表で確かめることで、子育てにおける苦労や負担をとらえることができた。そして、鹿児島市の子ども人口の推移を表すグラフから、子ども人口の減少だけではなく、毎年の出生数の減少や今後の状況についても読み取ることができた。子育ての課題点と子ども人口の推移の資料を関連させ

ながら、鹿児島市の子育て支援は、パスポート事業だけでは十分ではなく、他の施策も講じているのではないかという問題意識をもつことができた。(視点①, ③)

これらのことから、「つかむ・見通す」過程において、地域の特色を生かした素材を基にして、個々の資料の読み取りや関連付けを図り学習問題を設定することが、さらに子育てしやすい鹿児島市のあり方を追究していこうとする「自分のこととして見つめる姿」を表出するのに妥当であったと言える。その後、子どもたちは学習の計画を立て、追究の柱を基に調べ学習を進めることができた。

(2) 実践2 (5・6/10) 「調べる」過程

本段階では、子育て支援政策についてより実感的、具体的に追究させ、これまで何気なく感じていた市の政治について、問題解決のための根拠となる事実を蓄積させるために市の政治が進められている市役所、議決機関である市議会、そして子育て支援政策が実現されている例として子育て支援施設の見学・取材を設定した。子どもたちが人やものに主体的に関わり、学習問題の解決を図る過程と位置付けた。

| 主な教師の働きかけ | 自分とのつながりを見つめる姿 |
|---|---|
| <p>㊦ 鹿児島市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て支援政策を始め、市の政治が実際に進められていることを理解させるために、市役所の見学を行わせ働く人や利用する人を観察し、生活とのつながりを考えさせるようにする。  <p>㊦ 鹿児島市議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会が市の政治にとって欠くことのできない一部であることをとらえさせるために、市議会の議場の所在や様子、雰囲気等から、重要性を実感させるようにする。 ○ 市役所で行われている諸政策が、市民の代表である議会の議決に基づいて行われているということをとらえさせるために、実際の話し合いの様子や市議会の仕組み等について聞き取り調査を行わせる。 <p>㊦ 子育て関連施設 (なかまっち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿児島市の子育て支援事業が、政治の働きで実際に進められていることをとらえさせるために、なかまっちの見学をさせ、そこで働く人や利用する人に聞き取り調査を行わせ、事業の概要や恩恵についてまとめさせるようにする。 ○ 自分の生活と政治とのつながりに気付かせるために、施設・設備に着目させ、これまでに類似の施設や行事等に関わった経験を想起させるようにする。 | <p>鹿児島市の政治はどのように進められているのだろうか</p> <p>《市役所の見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員: 市民の生活に関わる窓口がたくさんあるぞ。 利用者: 様々な人々が利用してサービスをうけているのだな。 職員・利用者: 子育て支援に関する窓口があり、利用者が来ていたよ。 <p>市民生活のあらゆる部分に政治の働きが関わっているのだな。</p> <p>《市議会の見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員と議員: 市役所の人と50人の議員で話し合っているのだな。 案件の審議: 市議会の議決がないと市の政治も進められないのだな。 生活への反映: 市の案や議員の案を話し合い市民生活に生かしているのだな。 <p>市民の要望に応え、いろいろな話し合いがなされ、決められているんだな。</p> <p>《なかまっちの見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者: 街中で安心して過ごせるし、交流できて嬉しいということだよ。 施設職員: 子育てに関わるイベントをしたり、相談にのったりしているのだな。 <p>政治の働きが、実際に施設や人材となって活用されているのだな。</p> |

(考察)

市の政治の進め方について市役所や市議会、子育て関連施設についての見学・取材活動を位置付けた。市役所や市議会といった機関が、実際に立法や行政を進めていることを理解することができた。日常生活のあらゆる場面に見られる政治の働きが具体的に分かり、自分たちの生活と密接に結び付いていることを実感することができた。(視点②)

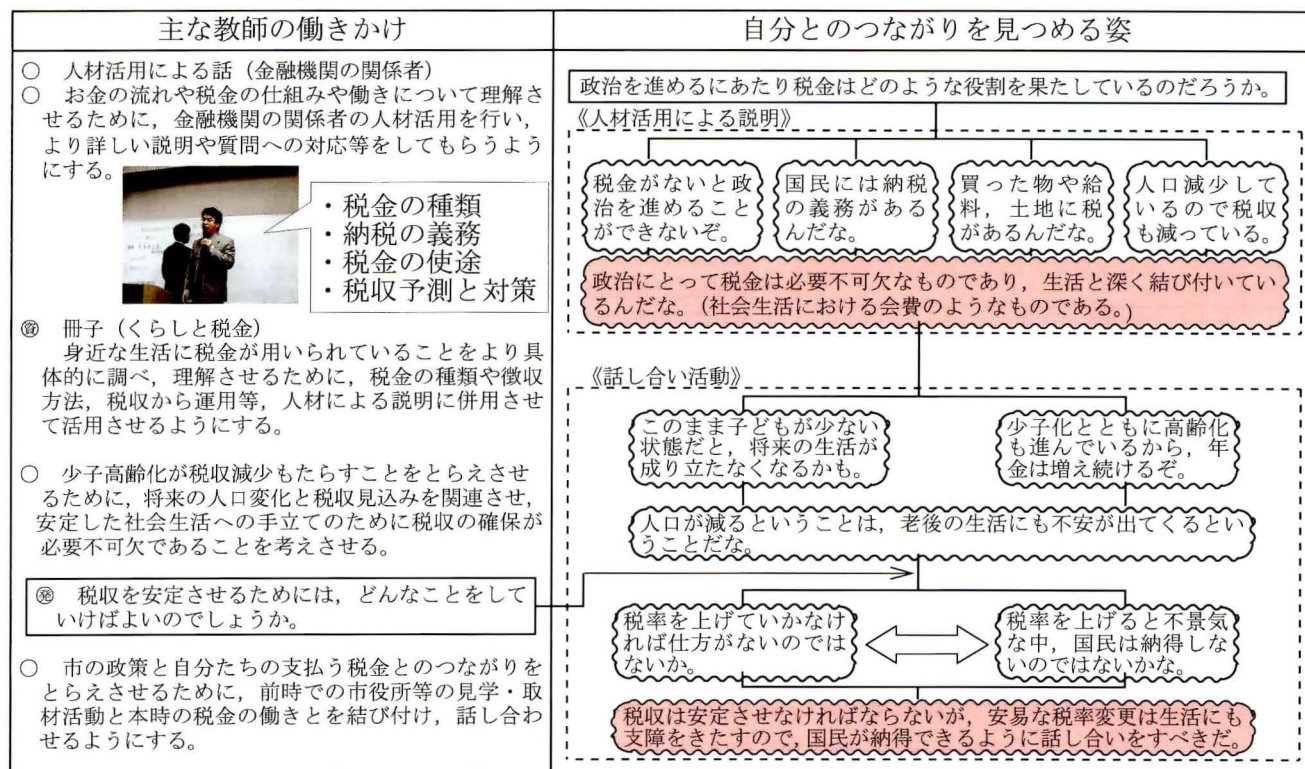
また、子育て支援関連施設も見学・取材することで、鹿児島市が実際に政治の働きを生かして、子育て支援の一環として施設を建設し運営している様子を理解することができた。そして、働いている人や利用している人々の様子やインタビューから、施設の利便性や安心感といった政治の恩恵を受けているということに共感させることができた。(視点②)

これらのことから、鹿児島市の政治の進め方に関する見学・取材の体験活動を学習内容

に位置付けることで、「社会生活とのつながりを見つめる子どもの姿」を表出させることができたと考える。

(3) 実践3 (7/10) 「調べる」過程

本段階では、政治に係る財源、その元手となる税金について、自分と社会生活とのつながりをより具体的に追究をさせるために、金融関係者の人材を活用する。特にここでは、子育て支援政策が税金の働きにより推進されているという関連性や、少子高齢化による今後の影響の因果関係等について考えさせる学習活動を設定した。



(考察)

事前の打ち合わせにおいて、基本的な税金の仕組みと働きの他に、少子化問題と税収という視点からも説明をお願いし、税金の仕組みと働きをより詳しく理解させるようにした。その結果税金の基本的知識が得られるとともに、必要性を感じることもできた。また、税金の未払い問題や将来の社会生活への影響等といった細かな質問にも即座に対応してもらい、子どもたちもより専門的に理解することができていた。（視点②）

よって、税金の仕組みや働きを理解する学習する際には、人材を活用することで、税金と子育て支援の関係について積極的に調べようとする「社会生活とのつながりを見つめる姿」を見出すことができたと言える。

(4) 実践4 (9・10/10) 「まとめる」過程

本段階では、これまで学習してきたことを生かしながら、将来とのつながり見つける姿を表出させるために、自分たちが考える子育て支援政策をマニフェストという形で発表し、よりよい政策を考えさせていく過程と位置付けた。そうすることで、将来の鹿児島市のよりよい子育て環境を予想したり、自分たちの積極的な政治への関わりなどに気付いたりする学習活動を設定した。

| 主な教師の働きかけ | 自分とのつながりを見つめる姿 |
|---|--|
| <p>○ これまでの学習を振り返らせ、自分たちなりの子育て支援案を「マニフェスト」という形で考えさせるために、これまで活用した資料を基に、市長（行政）の立場で新たな提案や改善策を話し合わせるようにする。</p> <p>◎（市の予算の比較）</p> <p>○ 自分たちの考えたマニフェストの妥当性を判断させるために、内容と関連する資料を基に話し合わせ、より現実的な内容について考えさせるようにする。</p> <p>◎ 写真（すこやか子育て交流館）、表（パブリックコメント）</p> <p>○ 政治に市民の声を反映させることが大切であるということをとらえさせるために、子どもたちの考えたマニフェスト内容が実際の市民からの要望の中にもあり、一部は実際に実現されているということを話し合わせる。</p> <p>◎ 手紙（子育てをしている人）</p> <p>○ 子育て支援と自分との関わりを考え、社会参画への意識を高めるために、政治以外での関わりを話し合わせ、身近な周りの支援の大切さに気付かせるようにする。</p> <p>◎ これからの政治はどう考えていけばよいでしょうか。</p> | <p>どうしたら、さらにより子育てができる鹿児島市になるだろうか</p> <p>予算や課題点を反映させて、より必要性のあるものがないといけないな。</p> <p>自分たちが考えたマニフェスト内容が市民の要望とも重なっているな。</p> <p>何でも実現させるわけにはいかないのだな。</p> <p>要望が採用され、より良いものに改善されているよ。</p> <p>市民の声、願いを届けることが大切。</p> <p>政治を理解し意見できることが大切。</p> <p>自分でもできることがあるのでは。</p> <p>市の政治を知り市民の声を届けることは、みんなの願いを実現させる上で大切なことだな。</p> <p>目的は、子育てしている父兄、母親にもどうつながりや相談の場があるか、どうサポートなどがあればいいか、子ども自身も、自分がどうしたいか思いまわすこと。</p> <p>子供を増やすため鹿児島市では税金の取り戻しができるのだから考えました。考えとしては子供の養育費の50%を市で負担し、子供が老人の知識を教えてもらえる施設もつくってほしいと思います。</p> <p>子どもの授業後の感想</p> |

（考察）

これまでの学習内容や学び方を生かす場として、子育て環境の向上や課題解決に向けてのマニフェスト作成を行わせた。その際、税金や市全体の現在の子育て支援状況を考えた市長の立場としての政策案についてグループで話し合わせた。ここでは、これまで授業で扱った資料や自分たちで持ち寄った資料等を根拠にしながら現実的で説得力のある発表を行わせるようにした。そうすることで、子どもたちは「まとめる」過程において、市の政治に目を向け政治や社会に参加しようとする姿、つまり、「将来とのつながりを見つめる姿」を、また、自分たちも子育てする人々を支えようとする意識を高められたことで「自分のこととして見つめる姿」を見出すことができた。（視点③・④）

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 社会科で目指す子ども像を設定し、具現化に向けて、社会科カリキュラム創造の視点を明らかにしながら、「自分のこととして見つめる姿」「社会生活とのつながりを見つめる姿」「将来とのつながりを見つめる姿」を見出すことができた。
- 社会科カリキュラム創造の視点を生かした、各学年ごとの年間指導計画作成に向けた基本的な考え方を明らかにし、各学年の年間指導計画や単元に位置付けたことで、自分とのつながりを見つめる子どもの姿が見られた。

2 研究の課題

- 伝統や文化に関する教育の充実に向けた取組を、地域素材の開発と併せて、今後検討する必要がある。
- 習得・活用・探究をより具体化した学習指導の在り方や、カリキュラム創造の視点を具体化した年間指導計画の作成に取り組み、目指す子どもを育成する具体的な指導を充実させていく必要がある。

【主な参考文献】

| | | |
|----------------------|-------------------------------|----------|
| ○ 文部科学省 | 「小学校学習指導要領解説 社会編」（東洋館出版社 | 平成 20 年） |
| ○ 北 俊夫著 | 「新社会科の考え方と授業展開」（明治図書 | 平成 20 年） |
| ○ ウォルター・パーカー著 藤井 千春訳 | 「社会科教育カリキュラム～市民社会を育むノート～」(ルック | 平成 20 年） |
| ○ 筑波大学附属小学校社会科教育研究部編 | 「社会科好きの子どもを育てる授業」（不味堂出版 | 平成 19 年） |